

けです。

進士 私は、緑の環境まちづくりに関する、いろいろな表彰の審査委員長をやってきましたが、昨年には秋篠宮の佳子様からあいさつをいただいた「第5回みどりの『わ』交流のつどい」がありました。

私は「緑の環境プラン大賞」の審査をしたのですが、滋賀県大津市にある一般社団法人の異才ネットワークを選びました。異才、つまり異なった才能のネットワークで、異才の子とは、いわゆる不登校の子どもたちなんです。今の「こもりびと」と同じようなことだと思えますが、言葉はとても大事だと思えます。だから、褒めたいんです。

私は、後期高齢者の保険証をもらっていますが、後期高齢者って、高齢者だけで足りなくて後期までもつけられるのかと。もう引退しろよと言われていないので、あまり愉快ではないですね。自分がそう呼ばれて

初めてそう思うものです。それを大和市のように、そこまで思いやれる行政マンは、とてもうれしいです。

異才ネットワークとは、いろいろなものの見方を肯定すべきであって、先生がたの考える普通の子とは違うことをやる子もいっぱいいる、それぞれが異才、異なった才能です。「こもりびと」にせよ、「異才」にせよ、言葉を配慮したことを褒めたいです。それは、相手のことを分かり思いやる人間性なんだと思います。

対談の終わりに

進士 援農サポーターと市民農園の話など、いろいろお話ししました。緑には水も土も太陽も農も入っていますし、自然も生命も含まれます。人間も皆生命の塊です。そういう生命を大事にした健康都市づくりを、大和市長はずっとやってこ

られた。そういう市のまちづくりを応援したい。行政ですべてお膳立てしなくとも、市民、NPOや民間企業には頑張っている人が大勢いらっしやるわけですから、協議会などをきっかけにして、ある種のミッシェンを示すといいと思います。

お釈迦様と私は4月8日生まれで、「人間には元来だれにも仏性がある」、つまり悟るとか生きる力とかがあると言われていきます。仏教って哲学ですね。拝んでおくと救われるというものではない。自分自身に生きる力が宿っているというのが仏教の思想です。そういうものなのに、だんだん世の中のシステムが複雑になって、救われない人、自分の専門に不適合を感じる人、不安いっぱいの人が増えてきました。誰もが自由に好きなふうにいるいろいろなことをやればよい、それが結果的に社会の役にも立つ

と考えればいいと思いません。

ではどうするか。絶対、こうでなければいけないと思う必要はない。大和市では、サッカーでも、文化活動でも、図書館の絵本の会でも、農園生活でも、好き好きがいい。それぞれがなんとか王国、例えばトータルマン王国を目指し、市民活力がフル回転している状態を心から期待しています。

大木 もう初詣に行ってきたという人も、これから初詣に行く、という人もいらっしやるかもしれません。初詣で神様仏様にお願いとときの心の中に嘘はないと思います。そのお願ひすることの中で、最も多いのは健康ではないかと思えます。

自分自身の健康、奥さんの健康、お子さんやお孫さんの健康。どうかこの1年間健康で元気に過ごせますように。その思いを大和市は健康都市という形で、人

の健康、まちの健康、社会の健康からなる健康都市やまを目標してここ十数年間走り続けてきました。この1年間も、皆さんが無事健康に過ごせるようお祈りしながら、スタートしていきたいと思えます。



この対談の様子は、FMやま(77.7MHz)で、1月1日(祝)午前10時から放送します(2日(月)・3日(火)も同時刻に再放送)。